

## 【私たちの民俗資料 No.1】

これまでに市民の方からご寄贈いただいた民俗資料を一部ですが少しずつ紹介してまいります。

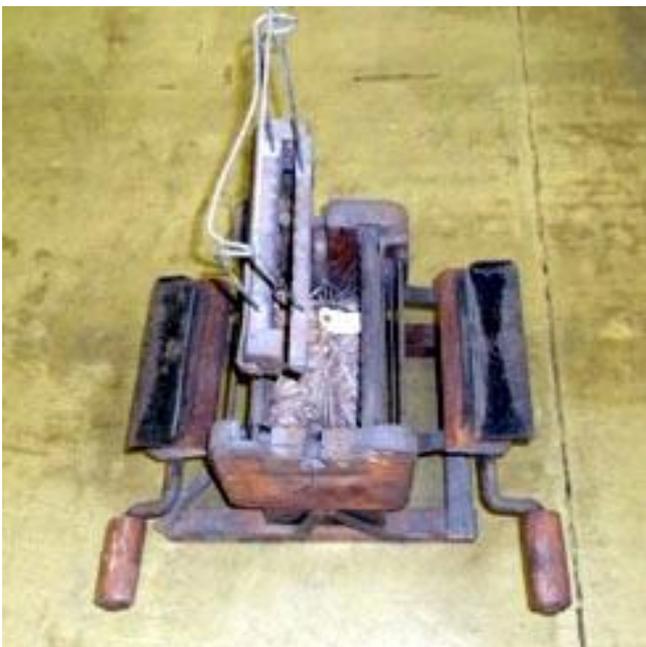
### 【糸車】（いとぐるま）



蚕（かいこ）のマユからとった糸に撚（よ）りをかけるための道具です。

大きな輪にひもをかけ、左側のところに棒に巻いた糸をおいて撚りをかけます。

### 【まぶしおり機】



蚕がマユになるときは、糸を口から吐き出してマユを作りますが、そのまわりに必要なまぶしを折る道具です。この機械はワラをまぶしに折るための道具です。

## 【製麺機】



うどんやソバなどを作るときに活躍した機械です。

小麦粉などをこねて、平らにして右側の部分に入れてハンドルを回すと細く棒状のうどんやソバができます。

## 【セイロ】



この下に、大きな鍋をおいて湯をわかし蒸気で、マンジュウなどをふかします。

お祭りの日などに大活躍した道具ですが、最近ではあまり見かけません。

### 【ハエとり器】



ガラスでできていて、二重になっています。  
内側に水を入れて器の下に、ハエの好物（例えば魚の切り落とした頭など）を入れておくとハエが内側に入りすべて水の中でおぼれるようになっていきます。

### 【千歯葉こき】



鉄製の長い歯をクシ状に木ではさみこ込んだもので、稲や麦などの穂からモミをすきとります。稲刈（いねか）りのときや脱穀作業（だっこくさぎょう）のときに欠かせない道具でした。

## 【トウミ】



稲や麦などのモミを選別するための道具で、左上の三角形のところから少しずつモミをいれて、右側のハンドルで内部の風車を回して風を起こしてモミを飛ばし、軽いものは遠くへ、重たいものはすぐそばに落ちるようして選別します。

今ではみることはほとんどありません。

## 【柱時計】



学校あるいは家の居間などの柱に掛けた時計です。

文字盤の「4」と「8」のところに時計を動かすゼンマイを巻く穴があり、「6」の下窓の中には振り子があって左右にゆれて時を刻むようになっています。

ゼンマイは何日かおきに巻かなければとまってしまうので注意が必要でした。